

# 東日本大震災復興支援活動『最終回』報告



1. 最終回のこの日は、4年前の原点に戻って苗を植える活動も行ないました。2. ゴールデンウィーク最中の企画にも関わらず15人の職員が参加しました。3. 大鍋経験者の采配により、女子職員が手際よく調理しました。4. ベストスマイルを披露。5. 花のプランターはこどもの日のプレゼントとしました。6. 約200食の豚汁を提供しました。

最後の活動は、4年前と同じように、子ども達と一緒に花の苗を植えました。

通算33回目となる復興支援活動を5月5日、職員15人が参加して宮城県東松島市で実施しました。若干期間を延長して、約4年間にわたって活動してきましたが今回が最終回です。

4年前の訪問時、甚大な津波被害により街の樹木や花々、畑はすべて流され、人々は疲弊し切っていました。JA鶴岡では、そこに野菜や花の苗を持ち込み、傷ついた地元の方々といふれあいながら畑の復旧やプランター作りに取り組み、被災地に緑と元氣を取り戻す活動を始めました。以来、のべ200人以上が宮城と福島を訪問して、さまざまな支援活動に関わっています。

最終回となったこの日は、数年ぶりに花苗や土、プランターなどを持参して、集まった子ども達と一緒にプランター作りで交流した他、復興祭イベントに協力して芋煮汁約200汁を調理・提供しました。

話をうかがうと、未だに自殺者が後を絶たないことや、幼児期の被災体験から心を病む子供達の深刻な現状をまだ耳にします。一方で、4年ぶりに街にコ

ンビニが復活していたり、仙台と石巻をつなぐJR仙石線が復旧間近になっていたりと明るい話題も増えてきました。現地での活動は一区切りとなりますが、被災地を忘れないこと、そして、関心を持ち続けることが、今後私たちができる大切な支援活動なのだと感じます。

これまで多くの役職員の他、JA女性部、青年部、西郷砂丘畑振興会等、組合員組織の方々からもたくさんのご支援や参加をいただきました。秋になるたびに4年続けて匿名でお米を提供して下さった生産者もいらっしやいます。

関係したすべての方々に、あらためて深く感謝を申し上げますとともに、被災地の復興を心よりお祈りいたします。

◇以上15人  
 【参加者】藍陽子、鈴木大亮、佐藤浩市、阿部亮矢（総合企画課）、石井彩音、金内恭子、白幡恭子（本店営業課）、佐々木健祐（園芸特産課）、眞田綾音（生活課）、長谷川篤夫（大泉支所）、太田学、阿部真、小花智道（北支所）、佐藤里奈（上郷支所）、伊藤璃菜（西郷支所）